

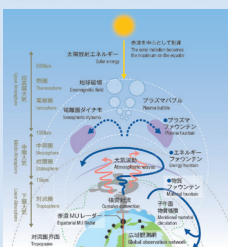


生存圏 アジアリサーチノード Humanosphere Asia Research Node



赤道ファウンテン共同研究

Cooperative Study of the
"Equatorial Fountain"



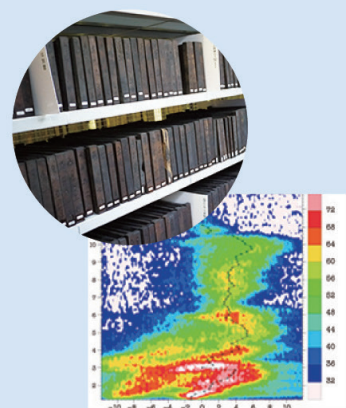
熱帯バイオマスの生産・ 循環利用・環境保全共同研究

Cooperative Research on the
Sustainable Production and
Utilization of Tropical Biomass
in Relation to Environmental
Conservation



生存圏データベース による国際共同研究

International Cooperative
Studies Using the Database
for Humanosphere Science



生存圏研究所は、平成28年度から、「生存圏アジアリサーチノード（ARN）」を整備・運営することで、国際共同研究のハブ機能を強化するとともに、生存圏科学を支え、さらに発展させる国際的な人材育成を進め、地球規模で起こる課題の解決に取り組んでいます。インドネシア科学院（LIPI）にJASTIPと連携して生存圏アジアリサーチノード（ARN）共同ラボを設置するとともに、マレーシアでの国際シンポジウムの開催、オープンセミナーのインターネット配信、インドネシアでの大気科学に関する授業や実習、生存圏データベースのミラーサーバー設置などの活動を行っています。また、生物資源・生物多様性に関する国際ワークショップをJASTIPと連携して宇治で開催するとともに、インドネシアでの生存圏科学スクール（HSS）の活動にも参加しています。平成29年2月20-21日にはマレーシア・ペナンで第1回アジアリサーチノードシンポジウムを、平成29年7月19-21日には、アジアや欧米からの招待講演者をふくむ228名の参加者のもと、第2回同シンポジウムを開催しました。生存圏研究所は、「生存圏アジアリサーチノード（ARN）」の活動をとおり、生存圏科学の一層の国際化を推進します。



生存圏アジアリサーチノード共同ラボ（JASTIP共同ラボと連携）

ARN & JASTIP Joint Laboratory

生存圏アジアリサーチノードではインドネシア・チピノンのLIPI・生物機能材料研究センターに共同ラボを設置しています。これらを活用し、国内のさまざまな研究機関が生存圏科学アジアネットワークの海外研究拠点へのアクセスを促進することで、ASEANと日本のハブ機能の役割を担っています。さらに、キャパシティビルディング活動として、海外の若手研究者を国内の施設の共同利用研究に引き込むための枠組みを組織しています。



生存圏アジアリサーチノードの教育活動

Capacity Building

生存圏アジアリサーチノードを中心としたアジア域における研究教育ネットワークをベースに、国際的に活躍しリードできる若手研究者・技術者の養成をはかります。生存圏科学の広範な普及をはかるため、国際スクール（Humanosphere Science School）をインドネシア及び他のアジア諸国において開催するとともに、生存圏アジアリサーチノードを活用した共同研究を実施し、生存圏科学を支える国際的な人材育成を進めています。



インドネシアにおける
大気科学実習



第1回ARNシンポジウム
(平成29年2月20-21日/マレーシア・ペナン)



第2回ARNシンポジウム
(平成29年7月19-21日/京都大学宇治キャンパス)



生存圏科学スクール2017、第7回生存圏国際シンポジウム
(平成29年11月1-2日/インドネシア・ボゴール)

URL

生存圏アジアリサーチノード ARN

<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/asiaresearchnodes/>

Contact

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所
0774-38-3346 E-mail: webmaster@rish.kyoto-u.ac.jp